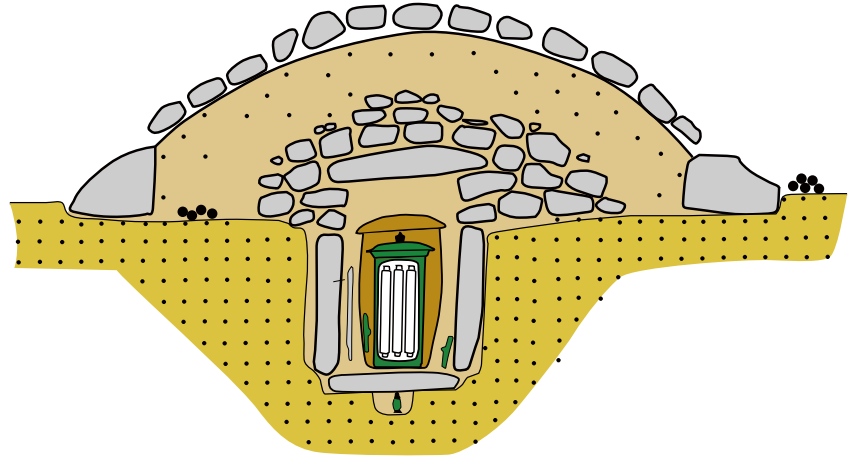


におうつか きょうつつ 日野市百草の仁王塚出土の経筒



経塚模式図

(『特別陳列 経塚出土陶磁展3 関東・北陸地方に埋納されたやきもの』奈良国立博物館より一部修正、転載)

長寛元年銘(1162)

京王百草園から1キロほど東の山の中から江戸時代に掘り出された^{きょうつつ}経筒です。当時、仏教の教えが弱まり悪がはびこる世界になってしまうという^{まっぼうしそ}「末法思想」が流行っていました。人々は少しでも^{ごくらくじょうど}良い行いをして極楽浄土に行くことを願い、大事な経典を経筒に納めて土中に埋めたのです。その時には真慈悲寺の僧が重要な役割を果たしたと考えられます。現在経筒は、鹿で有名な奈良の国立博物館で保管されています。